

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 佐藤
日 時	令和元年5月29日(水曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 3 時 33 分
出席委員	◎小川、○奥野、田中、赤坂、藤本、菱田 (竹田委員欠席)		
出席理事者	【産業観光部】吉村部長 [商工観光課]三宅課長、栗林観光担当課長、藤田主査 [一般社団法人森の京都地域振興社]山田管理部長、中越総括部長		
出席事務局	山内事務局長、鈴木議事調査係長、佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開議 (小川委員長あいさつ)

[事務局主任より日程説明]

2 案件

[産業観光部入室]

(1) 行政報告

- ①一般社団法人森の京都地域振興社 (森の京都DMO) の事業内容について (産業観光部行政報告)

[産業観光部長あいさつ]

[管理部長 資料に基づき説明]

1 4 : 0 6

[質疑]

<赤坂委員>

観光協会とどういうタグの組み方をしているのか。

<管理部長>

観光協会は亀岡市域、森の京都は4市1町で取り組んでいる。亀岡市というくくりは一緒である。観光協会は会員目線のウエイトが重い。DMOは地域の人目線の取り組みが中心である。生業として、成り立つような仕組みごとを、職や文化を通じて引き落とし、地域の観光業をしている人が、観光協会と一緒にタグを組んでやっている。森の京都DMOは、観光協会に入っていない、地域の人全体が対象である。

<赤坂委員>

先日、飛騨市・高山市へ視察に行ったが、万博が終われば、今後インバウンド効果も落ちてくると予想される。トロッコ列車で来られている外国人観光客を、どのようにおもてなしするかを考えている。交通手段も必要である。収益を得るためには、どうしていけばいいかいろいろと考えている。第一に宿泊施設がない。湯の花温泉とも手を組んでいない。個々に行くだけで、つながっていない。外国人に安く泊まってもらうために、ツアーを組むのか、早めに前向きに、観光に力を入れてもらいたい。人が来ないと夢で終わってしまう。観光協会ももっとお金を出すべきであるし、営業活動ももっとすべきである。京都府以外にも宣伝すべきである。宣伝が下手である。徹底的に観光協会とタッグを組むべきである。

<管理部長>

観光協会とは年間を通じて、事業のやり取りを行っているが、「外国に一緒に行きましょう」と誘っても「忙しくていけない」となるので、こちらが行くときに、PRできることがあるか声かけしている。亀岡市の観光協会は、京都府内ですば抜けてよい。

<商工観光課観光担当課長>

年間128万人のトロッコ亀岡駅乗降者がいる。規制がいろいろとかかっているため、駅周辺の利用状況が非常に悪い。今後都市計画のなかで、観光にも活用できるように取り組んでいく。ホテルは駅前に2軒、湯の花温泉に1軒建つ予定である。地域連携については、京都丹波観光協議会があり、2市1町（亀岡市・南丹市・京丹波町）で構成している団体である。DMOは主にインバウンドのプロモーションを行っている。国内については、この協議会でプロモーションを行う。また、舞鶴市・宇治市・亀岡市の3都市の連携でも観光客を引き込もうとしている。観光は受け入れの部分を強化してきている。

<藤本委員>

高山市を視察したが、海外戦略の効果として、年間400万人の誘客と経済効果1,980億円、その内外国人観光客55万人、約400億円の経済効果がある。亀岡市も、フランスやオーストラリア、香港に行ったり、4市1町で連携しているが、亀岡においてどれだけの経済効果があるのか見えない。2市1町が連携している意味があるのか。実際の効果としてどれだけあるのかわからない。民間の旅行会社に頼んだ方がいいのではないか。もっと地元の宝物を生かすべきである。具体的に何をやっているのかわからない。これからするのでは説得力がない。来年度から大河ドラマが始まるので、何とか見える形で連携してほしい。成果があらわれるように頑張ってもらいたい。具体的に関空から直行バスを出すなど行ってもらいたい。

<管理部長>

JRとの連携を行っている。関空からの直行バスは、トロッコ列車まで来ている。インバウンドの観光客は来ている。トロッコ列車、保津川下りで止まっている。京都市内に連泊している人が多いので、半日でも亀岡市に来てもらえるように、PRしている。直接的に今すぐ効果があるようなものではない。大河ドラマ館とコラボした取り組みを考えている。インバウンドの人に光秀と言っても来られないかもしれない。

<藤本委員>

外国人におもてなしできるような手を打たないのか。どのようなおもてなしを提供するのか。お茶の京都との連携は、実際どれだけの効果が出ているのか。

<商工観光課観光担当課長>

お茶の京都は、舞鶴市・宇治市・亀岡市で連携している。3つの市を回れるルートを作り、プロモーションしている。

<藤本委員>

具体的に、バスツアーをして亀岡を回っているのか。

<管理部長>

今月から京阪京都交通と宇治でバスに乗り、亀岡市に来てもらう。海の方との連携は、大型客船の客を亀岡市に呼んでくるような企画をしている。

<藤本委員>

具体的に宇治市から観光客は来ているのか。

<管理部長>

まだ始まっていない。始まったら報告する。

②地域未来投資促進法の制度概要について（産業観光部行政報告）

[商工観光課長 資料に基づき説明]

14:29

[質疑]

<藤本委員>

宿泊施設の誘導と緩和策のなかで、滞在型観光から宿泊型観光に切りかえていく必要がある。スタジアムもできるので、泊まれるところがなければ意味がない。ホテルの年間稼働率が7割ぐらいでなければ、経営が成り立たない。京都市から、客を誘導する企画がないと、何軒ホテルを建てても、経営倒れしてしまう。どのような感覚をもっているのか。

<産業観光部長>

支援制度を京都府とともに立ち上げて、工場立地、ホテル誘致を進めている。ホテル2軒と湯の花温泉1軒ができる見通しである。稼働率は難しい問題であると認識している。誘致の際に、進出事業者と話をするなかで、「亀岡だけでは、稼働率を安定して見込めないの、なかなか進出することにつながらない」と言っていた。スタジアムができ、光秀のまちとプロモーションしているなかで、京都市内での観光客を亀岡市に取り込むことを見据えている。今亀岡市にビジネスチャンスがあるのではないかという見通しになってきた。

<菱田委員>

ホテルが実際進出して、「3年間優遇したからあとは知りません」では具合が悪い。「来てください」と言って、来てもらった以上、ある程度保ってくれないと、イメージダウンになる。シャープが亀山ブランドを作って、一気に人口がふえたが、シャープがなくなったら、シャープが来る前より人口が減った。このようなことにはなってほしくない。企業誘致にしても、誘致はしたが、「労働力が足りない」、「輸送がうまくいかない」などそのあたりも含めて、その先にはそのようなことがあるということを意識してやってもらいたい。

<産業観光部長>

ご指摘の通りである。さまざまな課題を抱えながら、宿泊施設や工場誘致を進めている。さまざまな支援策やプロモーションで集客するなど取り組んでいる。工場に

については、従業員の確保が課題であるので、2市1町で連携して説明会を開催したりしている。宿泊客については、京都周遊を進めるなかで、亀岡市にも1泊2泊してもらえるように、安定的に呼び込んでいきたいと考えている。

<奥野副委員長>

特例に関する条例は、近隣市町村より勝っているのか。同じことであれば、出遅れていることになるのでは。

<商工観光課長>

平成31年3月末までに、全国で227市町が計画を策定している。近隣市町も計画を立てている。

<奥野副委員長>

3年間限定で固定資産税を免除することは、飛び抜けた条件でもないということか。

<産業観光部長>

宿泊施設に対する助成制度については、亀岡市・長岡京市・京丹波町が新たにホテルを建てるので、条例の制定があると思われる。府内で支援策を持っているところはその3市ぐらいである。順次ホテル誘致が決まれば、助成制度が設けられると思われる。京都府の助成制度を受けるためには、市町が助成制度を持っていないと受けられない。

<奥野副委員長>

製造施設も同様か。

<産業観光部長>

製造業も各市町で制度を持っていると思う。亀岡市は、3年間で300%分の固定資産税を免除する。南丹市は亀岡市よりも減免率が高い。亀岡市は特別高くも、低くもない。

<奥野副委員長>

他市に比べて勝っているわけではないということか。

<産業観光部長>

亀岡市は府立や市立の工場団地を持っていないので、民間事業者の誘致活動が中心である。京都縦貫自動車道の開通が契機になっており、亀岡市に対する期待は高まっている。大井町南部の区画整理事業地内の工場用地は完売している。篠町の区画整理事業で工業団地を増設中であるが、引き合いがあると聞いている。地価のバランス、交通アクセスから、支援策の高い低いに関わらず、需要が高まっていると認識している。

[産業観光部退室]

14:45

(2) 行政視察の総括

<小川委員長>

手元に各委員の意見を掲載した資料を配付した。それを踏まえ、各視察市についての感想をいただきたい。

① 楽天(株)と連携した飛騨市ファンクラブ事業について(飛騨市)

<藤本委員>

よく頑張っている。亀岡市も例えば、「サッカーファンクラブ」などのファンクラブを作ってはどうか。一番関心したのは、ふるさと納税の返礼品の中にチラシを入れて、ファンクラブの案内をしていること。いろいろなイベントや総会を行っていた。プラスになることなら積極的にやるべき。亀岡市も研究してどんどんやっていたほうがいい。

<赤坂委員>

楽天に限らず、dポイントなど、いろいろなお店のポイントカードが1つにまとまってもおもしろいと思う。飛騨市は不便なところなので、頭打ちなところが見えた。亀岡市はベットタウンですごくやりやすいと思う。市民全員が会員になれるように、スタジアムもできるので、いい宣伝になる。できるだけ早く行動に移していけばいい。

<藤本委員>

飛騨市は、人口の1割強の会員数をもっとふやすべきである。亀岡市では、2万人くらいのファンクラブを作って、PRにつなげていけばいい。この視察の報告書をまとめて、亀岡市への提言として、執行部に出すのか。

<小川委員長>

考察をまとめて、今後の取り組みとして、委員会として研究して行政に提言なりアドバイスがあってもいいのではないかと思う。

<赤坂委員>

亀岡の独自性を出して考えて作っていけばいい。インバウンドなどの集客をどうしていくのか。早くしないといけない。観光の方に話を進めていった方がいい。

<小川委員長>

参考にするところがたくさんあった。研究して、亀岡市としてみんなが参加できるような形で取り組んでいけたらいいと思う。

② 景観のまちづくりについて（高山市）

<赤坂委員>

市民がすごく協力的であった。しっかり連携を取り、力を合わせてやっていかなければならない。できるだけ早く前向きに優先順位を決めて、市民と一緒にやっていくことが大切だと思った。

<藤本委員>

10年前から、各鉾町の無電柱化を訴えているが、亀岡市は国へも要請せず、「お金がない」、「地元の協力が得られない」と言い、一步も進んでいない。高山市は住民と電力会社が進めて、行政がそこに入って条例化した。亀岡市は条例を作って、地元を持っていったため進まない。国への要望を積極的に出すべきである。このままでは、観光客もがっかりすることになる。

<菱田委員>

議会や行政が一生懸命動いても、住民の意識が薄すぎる。行政よりは、住民に近い議員の立場で住民に関わっていてもいいのかなと思った。

<奥野副委員長>

高山市は市民が協力している。市民の意識を高めることが必要である。条例で縛っても高められない。順次10年計画ぐらいでやっていかないといけない。

<小川委員長>

住民の理解が必要である。行政も積極的に国の補助金を取りにいくべき。駅南も含

めて、検討されると思うが、地域の意識を啓発しながら、景観のすばらしいまちづくりに努めていってほしい。

③ インバウンド観光施策について（高山市）

<藤本委員>

滞在型観光から宿泊型観光に移行する必要がある。DMOが海外などに行っているが、高山市のような効果が出ていないように思う。滞在してもらえるにふさわしいまちにしていかなければならない。

<赤坂委員>

危機感を持ってほしい。優先順位を考えて、みんなで一丸となって取り組むべきである。

<藤本委員>

行政の対応が遅すぎる。来年から大河ドラマが始まるのに、誘客の戦略ができていない。オリンピックや万博が終われば、一気に落ち込む。もっと早く手を打つべきである。

<小川委員長>

いろいろな施策を参考にして、委員会でも積極的な誘客活動をしていきたい。多言語対応やSNS発信を含めて、亀岡の魅力を海外に発信していきたい。誘客のために、宿泊施設との連携を取りながら、おもてなしができるように考えたい。

④ バイオマス活用センターについて（豊橋市）

<赤坂委員>

すばらしい施設だった。亀岡市では場所もないし、太陽光も霧が多いしできない。ごみの分別は勉強になった。

<藤本委員>

亀岡市だけでは、費用対効果を考えたとき、難しいので、広域連携で行っていくべきである。京都府の施設が亀岡市にできるのであれば、調査・研究してやってもらいたい。

<奥野副委員長>

いい勉強になった。亀岡市も考える必要がある。

<小川委員長>

ごみの分別について調査・研究していくべきである。2つの部局がまとまり、1つの方向性も持っていい事業を展開していた。我々は、委員会の所管である上下水道部の事業の進捗状況を注視していく。

<藤本委員>

南丹市に水を売り、代わりに、亀岡市の下水を処理してもらおう。年谷浄化センターの状況を見ながら、広域化の検討が必要である。

（４）委員会の今後の取り組みについて

<藤本委員>

行政視察の報告書について、委員長・副委員長でまとめてもらい、執行部に提言していくべきである。

<赤坂委員>

観光やエネルギーなどに関わっている地元の人と、話ができるような仕組みを作りたい。行政も入りやすく、まとまりやすい。

<菱田委員>

テーマを決めて、一定の方向性で調査・研究して、うまくいけば、最終的に理事者に提言していけばいいと思う。

<藤本委員>

スタジアムは来年できるので、1年かけて検討して、提言しても間に合わない。タイムリーに、行政に提言していくべきである。インバウンドや誘客政策は早くする必要はある。

<菱田委員>

例えば、「まちのにぎわいづくり」というテーマで、にぎわいづくりとは何かから入っていく。飛騨市は毎年400人減っているが、減っている危機感を持ち、行政としてできるところからやっていった結果が観光だった。費用をかけるばかりでなく、お金を生み出し、行政の財源をどう確保していくのか。足元にあるものを見直していくことが今回の視察の目的だと受け取った。万博のその後を考える必要がある。景気が下向いたときにどうするのが重要である。人口が減っても、行政が成り立つことを考える。ふるさと納税で稼ぐのも一つ、観光客を引き込むのも一つである。まちのにぎわいづくりをどうするのかになると思う。ホテルが来て終わりではない。大河ドラマが実現して終わりではない。行政もまだまだぬかっているので、しっかり研究して提言までもっていくことが必要である。

<赤坂委員>

「人が集まる亀岡」はどうか。

<小川委員長>

「亀岡のにぎわいのあるまちづくり」に決めて、そこから掘り下げていく。

<藤本委員>

無電柱化は、しっかり取り組んでもらうよう提言はすぐに出すべきである。

<小川委員長>

「亀岡のにぎわいのあるまちづくり」について調査・研究を深めていきたい。

<赤坂委員>

「亀岡のにぎわいのあるまちづくり」のテーマで、インバウンドや無電柱化のことなどいろいろあって問題ないと思う。

3 その他

<小川委員長>

(6月議会審査日程)

散会 ～15:33